

# うまがたはにわ 馬形埴輪について

今からおよそ 1,500 年前、日本各地に「古墳」という人工の山が築られました。その地域の有力者のお墓として築かれたもので、最も大きなものは全長 500m 近くになります。

古墳の上には、「埴輪」という焼き物で飾られていました。埴輪には筒状のものと動物・人物・家などをかたどったものなどがありました。

奈良県田原本町大字八尾にある笹鉾山古墳群の1つ、「笹鉾山2号墳」からは、さまざまな埴輪が見つかっています。直径 22m 程度の小さな古墳ですが、たくさんの埴輪で飾られていたようです。

下の写真は、笹鉾山2号墳から出土した「馬形埴輪」です。さまざまな馬具を、粘土を貼り付けたり線を描くことで表現していました。このような飾られた馬は、その土地の有力者が大切にしていた馬であると考えられます。そして、有力者が亡くなった後も、その有力者の力を示すものとして、飾り付けられた馬形埴輪が作られ、古墳にならべられたと考えられます。



左側から



上から



右側から



## ばく 馬具の各部分の名称

### 馬形埴輪

6世紀（古墳時代）

笹鉾山2号墳出土

高さ 71cm

長さ 約85.8cm

幅 21cm

